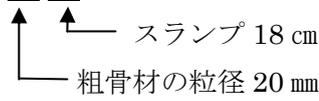
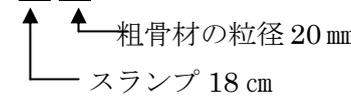


耐震建築をつくる RC 造の要素技術 正誤表

No.	頁	位置	誤	正
1	2	下から 12 行目	(a) は柱脚ピン	(a) は柱頭ピン
2	3	図 1.2-1	Fc24-20-18 	Fc24-18-20 
3	7	下から 15 行目	柱や壁は水平に、梁や床は	柱や壁は水平に、 <u>壁・梁・床</u> は
4	7	下から 8 行目	せん断補強筋の配筋が必要	せん断補強筋やひび割れの <u>拡大を防ぐ配筋</u> が必要
5	16	左側写真	写真 1.2-22	写真 1.3-22
6	23	下から 5 行目	$\underline{R} \cdot e$	$\underline{N} \cdot e$
7	24	下から 2 行目	写真 2.2-1 に示すように、 <u>主筋が溶接の影響で材質が変化し、根伐中に曲げた主筋の矯正が必要</u> なため、杭頭から下がった位置に補強リングを設ける。	写真 2.2-1 に示すように、 <u>根伐中に曲げた主筋の矯正が必要となり、主筋が溶接の影響で材質が変化し、折損する恐れがあるため、杭頭から下がった位置に補強リングを設ける。</u>
8	53	上から 6 行目	加工が困難である。 <u>組立てを</u>	加工が困難で組立てを省力化
9	61	下から 8 行目	詳細に報告 14)	詳細に報告 15)
10	62	下から 3 行目	垂れ壁の形枠	垂れ壁の型枠
11	65	図 4.5-3 式	$a_i = \frac{M}{f_t} \times j$	$a_i = \frac{M}{f_t \times j}$
12	69	下から 1 行目	(付録 1)	
13	70	下から 3 行目	(付録 1)	(付録 2)
14	70	下から 2 行目	(付録 2)	(付録 3)
15	77	下から 14 行目	配水管	排水管
16	77	下から 5 行目	場合があり、辺の--	場合があり、 <u>後者の場合は</u> 辺の--
17	94	下から 14 行目	鉄材が <u>かぶり</u> 厚さを	鉄材の <u>かぶり</u> 厚さを
18	95	表.5.3-1	水平打継ぎ目の強度 9)	水平打継ぎ目の強度 14)
19	110	下から 2 行目	片持梁スラブの	片持スラブの

耐震建築をつくる RC 造の要素技術 追加正誤表

No.	頁	位 置	誤	正
1	4	下から 4 行目	費やされたため	費やされた <u>た</u> ため
2	8	下から 9 行目	固相溶接	固相 <u>接合</u>
3	8	下から 7 行目	日本圧接協会	日本 <u>継手</u> 協会
4	8	下から 5 行目	隙間は 3mm以下	隙間は <u>2</u> mm以下
5	9	上から 5 行目	日本圧接協会	日本 <u>継手</u> 協会
6	9	上から 22 行目	日本圧接協会	日本 <u>継手</u> 協会
7	10	上から 4 行目	固相溶接	固相 <u>接合</u>
8	11	下から 2 行目	隙間が 3mm以下	隙間が <u>2</u> mm以下
9	12	上から 5 行目	日本圧接協会	日本 <u>継手</u> 協会
10	21	上から 3 行目	根入れ使用とすれば	根入れ <u>し</u> ようとすれば
11	21	上から 19 行目	基礎の成が	基礎の <u>下</u> 端が
12	82	下から 2 行目	4.4.8 の図	<u>6 1 頁</u> 4.4.8 の図

【ご注意点】

こちらの正誤表は、第1版1刷に適用されます。第1版2刷では修正が済んでおります。
書籍の版・刷数のご確認は、当書籍の奥付ページ（139頁）にてご確認ください。